

公開実用 昭和61-129705

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑩ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U) 昭61-129705

⑬ Int.Cl.<sup>4</sup>

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 昭和61年(1986)8月14日

B 65 B 31/02

6576-3E

審査請求 未請求 (全 頁)

⑮ 考案の名称 汎用自動真空包装装置

⑯ 実 願 昭60-12026

⑰ 出 願 昭60(1985)2月1日

⑱ 考 案 者 清 水 勝 明 東京都文京区西片1-17-11-510

⑲ 出 願 人 株 式 会 社 三 愛 東京都北区西ヶ丘1丁目48番9号



明 細 書

1. 考案の名称

汎用自動真空包装装置

2. 実用新案登録請求の範囲

蓋体を有する函状の容体内部へ、加熱受体を設けたダイヤフラム部を設置し、チャンバー内へ各種の被包装物品を収納した合成樹脂製の袋体の開口辺縁を、前記ダイヤフラム部の加熱受体上へ載置させ、蓋体の内部へ前記加熱受体と当接する位置へ加熱体を設け閉蓋することによって挟持させ、真空ポンプでダイヤフラム下室部及びチャンバー内をバキュームし、予め定められた真空圧を前記真空ポンプと連動させた電子式スイッチで感知せしめて自動的に真空状態となし、次いでダイヤフラム下室部内の真空を解除し続いて袋体開口辺縁をヒートシール処理する過程を自動化させたことを特徴とする汎用自動真空包装装置。

3. 考案の詳細な説明

本考案は真空包装装置の改良、自動化に関するものである。



従来、合成樹脂製の袋体に被包装物品を収容し、該袋体一辺開口辺縁を真空状態でヒートシールする真空包装装置は周知の技術であり数多く実施されている。本案に係るボックス型真空包装装置に於いても総て手動式タイマースイッチを使用しているため袋詰めされた物品は同一商品であっても其の都度タイムを合せて入力を行なわなければならず極めて非能率であった。又タイマーの数字の読み取り違いから真空不良の包装商品が産出されると共に目測での数字合せのため微細な変化が生じ均一な真空圧を得ることができず真空包装商品に最も要求される真空度（圧）の均一化が困難であるといった数々の不都合が存していた。

本考案は上記の種々の欠点に鑑み案出されたものであって、現在用いられている手動タイマースイッチを廃し電子式自動真空スイッチを使用して真空度を感知させ被包装物品の真空度の均一化を計り、チャンバ内部にダイヤフラム部を設けバキューム後、ダイヤフラム下室部の真空を解除してシールする装置であって、本装置によって各種の



商品の真空包装が自動的にかつ均一に行なえることを利点とする装置の提供である。

以下、添付図面に示す実施例に基づいて詳細に説明する。

第1図は本考案装置の細部を略した説明のための斜視図であり、第2図はそのダイヤフラム部の断面図であり、第3図は第1図の説明のための断面図である。

函状の容体Aの上部を覆う蓋体1を開閉自在と成し、容体A内部へチャンバー2を構成する床板3を形成し、該床板へダイヤフラム部Bを立壁状に設けて、該ダイヤフラム部Bの上部へ加熱受体6を形設し、次いで合成樹脂製の一辺を開口した袋体C内へ各種の被包装物品を挿入して収納し、開口辺縁7をダイヤフラム部Bに設けた加熱受体6上へ載置し、冒記の蓋体1内部へ、容体A内に設けたダイヤフラム部B上部の加熱受体6と密接に合致する位置へ加熱体（発熱体）8を設け、蓋体1を閉じることによって、開口辺縁7を挟み込み、チャンバー内2内部及び載置した被包装物品



を収容した袋体C内部とダイヤフラム部B下室部5内をバキュームポンプ（周知の技術であるため図示せず）で予め設定した真空圧（度）に達するまでバキュームし、続いて密閉状態と成したチャンバー2内及び袋体C内部は負圧した状態の儘、ダイヤフラム下室部5内の真空を解除して常圧と成すことによってダイヤフラム部Bを上昇させ袋体開口辺縁7を加熱受体6と加熱体8とで押圧させ該加熱体8に入力してヒートシールされる。

以上説明した真空包装装置は真空ポンプ（バキュームポンプ）と連動させた電子式真空スイッチを用いて作動させ真空圧（度）を自動的に感知せしめて、真空状態を現出させ加えて袋体開口辺縁のヒートシール加工が行なえる過程を自動化させ極めて簡易な操作で均一な真空圧による被真空包装商品が高効率で得られる汎用自動真空包装装置の提供である。

#### 4. 図面の簡単な説明

第1図は本考案の細部を略した斜視図である。

第2図は細部を略した説明のためのダイヤフラム



部の断面図である。第3図は細部を略した説明の  
為の断面図である。

A - 函状の容体、B - ダイヤフラム部、C - 袋体。  
1 - 蓋体、2 - チャンバー（真空ボックス）3 -  
床板、4 - ダイヤフラム、5 - ダイヤフラム下室  
部、6 - 加熱受体、7 - 袋体の開口辺縁、8 - 加  
熱体。

実用新案登録出願人

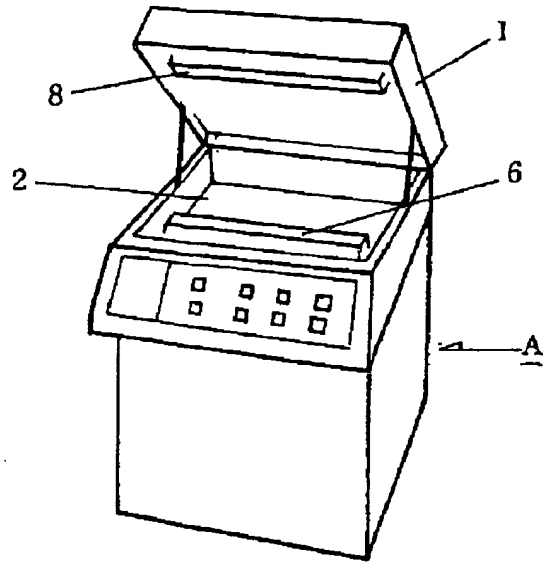
株式会社三愛

代表取締役

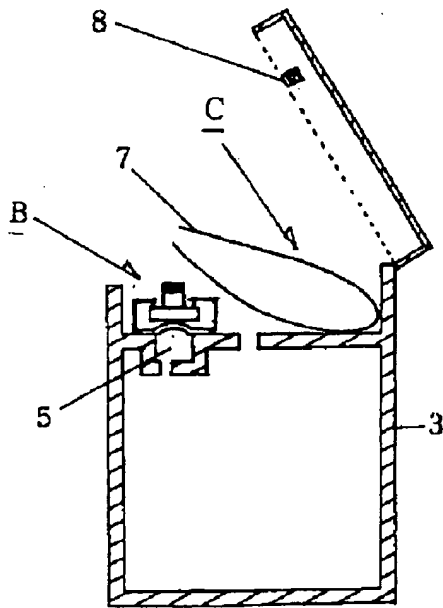
清水 勝 明

図 面

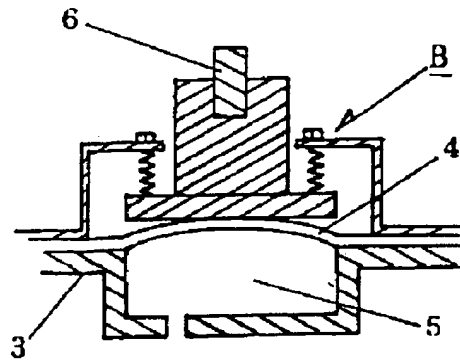
第 1 図



第 3 図



第 2 図



実用新案登録出願人 株式会社三愛  
代表取締役 清水 勝明

83

実開61-129705